

【介護から自分を知る④】

★

2 介護の現状②

高齢者が骨折した場合に予想されることは、

- ・今までの生活が可能なのか、
- ・多少は行動範囲が条件付になるのか、
- ・時間はかかるがある程度治癒し、今までの生活が期待できるのか
- ・介護が必要になるのか（その度合い）
- ・他の病気との関係で問題が生じるのか

などが現実問題として発生します。

○その対応を考えていきたいと思います。

今までの生活が期待できる場合、行動範囲の条件を少なくする場合などには、本人のリハビリの取り組み姿勢と、家族等の協力関係によってことになってきます。

その第一は、どこでリハビリを受けるのかで変わってきます。特に交通手段が問題となってきますので、その確保をどうするかです。自宅の近くであれば問題が少ないと感じますが、リハビリ場所までの送迎が必要なことが多いですし、その時間の問題と、送迎者の関係で、日にちが長くなればなるほど困難性が予想されます。本人の気持ちの上でのあせりと家族の不安な気持ちが混ざりあってくることが心配になってきます。

現実を考えてみると、どこでリハビリを受ける場合においても同じような問題があると思います。公共交通機関の活用はあまり期待できないし、地域の協力者の期待についても難しいと考えられます。また、タクシーの利用には、お金が関係してきます、その処理が可能かどうかで変わってきます。

本人がリハビリ施設まで行くには、どうすればよいか日頃から考える必要があります。マイカーの利用については、年齢を考えると難しいと思われますし、家族についても同じようなことがいえます。子どもたちが近くで、送迎を行っていただけるような環境なら問題ないですが、核家族、共稼ぎの時代にあってはあまり期待ができないのが現実です。また、家族等の病気の関係において難しい環境もありますので、どう対処していくのかを専門家等に相談することも一つの手段になっています。

その第二は、自宅での日常生活とリハビリの実施です。自宅において今までと同じように生活が可能かどうかです。一部の手直し程度でよいのか、それとも住宅改修の必要があるのかどうかです。また、改修の内容ですが、段差解消が必要か、手すりが必要かですし、ベツトなどの福祉用具が必要なのかどうかも検討する必要があります。

本人がどこまで自力で生活が可能かによって変わってきますが、その期間にも関係してきます。長くなっても気力が続くのかの問題にかかってくるので、その支えが必要であり、家族等の役割が大切になってきます。今までとあまり変わらない生活ができるには、どうしたらよいのか、どうすれば可能になるのかを明確にすることが大切ですし、そのことを充分理解することも忘れてはなりません。